日本産業技術史学会2015年度第3回理事会議事録

日時：2016年3月20日（日）　14：00～17:00

場所：新大阪丸ビル本館会議室609B

出席者：堀尾尚志、天野雅敏、石村眞一、後藤邦夫、田中一郎、廣田義人、藤原惠洋

委任状：種田明、高松亨、橋本毅彦、麓和善、山田大隆

欠席：鈴木淳、中村尚史、三宅宏司

報告事項

1.次期役員選挙について

廣田理事より第17期役員選挙の投票結果について、資料に基づいて、理事・監事候補者全員が信任されたとの報告があった。(資料内容、以下参照)

新役員一覧(任期：2014年4月1日から2016年3月31日まで)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 理　　事 | |  |  | 監　事 |
| 北海道(定数1) | 山田大隆 |  |  | 臼田松男 |
| 東北(定数1) | 石村眞一 |  |  | 大石道義 |
| 関東(定数5) | 鈴木　淳 | 橋本毅彦 |  |  |
|  | (立候補2名) |  |  |  |
| 中部・北陸(定数2) | 田中一郎 | 麓　和善 |  |  |
| 近畿(定数5) | 天野雅敏 | 廣田義人 |  |  |
|  | 堀尾尚志 |  |  |  |
|  | (立候補3名) |  |  |  |
| 中国・四国(定数1) | (候補者なし) |  |  |  |
| 九州(定数1) | 藤原恵洋 |  |  |  |

理事選挙有効投票数　57標　(内訳：北海道 2、東北1、関東 22、中部 9、近畿　14、九州 9)

監事選挙有効投票数　65票

2.本会運営の状況について（財務・会費納入状況等）

廣田理事から資料に基づき、2015年度の現在までの収支状況について、以下の説明があった。(資料添付略)

現在、会費完納率は75%で、未納者からの会費納入があるとして、会誌発行が1回であった本年度はほぼ収支均衡する見込みである。会誌を年2回刊行とした場合、その経費がまるまる繰越金を減らすことになる状況である。会費未納者・滞納者については会誌送付の際に個別に未納年度を伝え、会費納入を促している。

3. 本会運営の状況について（会員の動向等）

堀尾理事より資料に基づいて、会員数、入・退会の状況について説明があった。(資料内容、以下参照)

会員の動向 ～　2015年度名簿以来

会員数　　134 (内賛助会員1)　 なお、入会検討中(賛助会員)　が1件

増2 (新入会2)、減1 (退会1)　なお。さらに退会が2,3名予想される。

メールアカウント登録者数　109

4.　2016年度年会の準備状況について

田口実行委員長より、6月25日、26日に開催される年総会について次の説明があり、了承した。

年総会は25日(土)10時～17時に大阪駅前第2ビル6階大阪市立大学梅田サテライトのホールで開催する。記念講演を大阪市立大学経済学研究科大島真理夫教授に経済史の立場から「技術史研究に期待するもの」というテーマでお願いした。懇親会は大阪駅前第1ビル地下で予定。26日のエクスカーションはアクアライナーによる旧淀川周遊と周辺史跡・博物館見学（適塾、大阪城、大阪歴史博物館等）を予定している。

田中理事から資料に基づいて、「日本の工学教育と産学連携」というテーマでのシンポジウム案の提案があり、了承した。時間は一般講演の件数により調整する。

資料代1000円を徴収することを申し合わせた。

5.　 会誌編集の状況及び発行予定について

田中理事より、現在、掲載可の論文が1本、査読中の論文が1本あるが、投稿が少ないため、シンポジウムの報告要旨を入れて、2016年度中に1号を刊行することも検討しているとの説明があった

審議事項

1.　理事の補欠選挙について

堀尾理事より、第17期役員選挙において欠員が生じた関東、近畿、中国・四国選挙区について補欠選挙を実施することが提案され、審議の上了承した。石村理事から選挙区別名簿を用意してほしいとの要望があった。

2.　『技術と文明』既刊分のWeb公開について

田中理事から資料に基づいて、以下の提案があり審議の上、了承した。

2016年度総会で報告後、直近の2号を除き、19巻1号まで公開する。「投稿規定」に掲載論文の著作権は学会に帰属する旨の文言を入れる。これについては思文閣出版に確認する。学会ホームページで論文タイトルをクリックすると論文および研究ノートの本文を閲覧できるようにする。

3.　Webジャーナルの投稿規定等について

石村理事からWEBジャーナル準備委員会で検討された投稿規定案について説明があり、審議の上、下記のとおり申し合わせ了承した。

・提案のとおり、論文本文は2段組とする。

・原稿はMS-WORDファイルで編集委員会に送付する。

・英文abstractは200word以内で、必ず英語を母語とする人に直してもらってから投稿する旨、投稿規定に明記する。

・英文の投稿規定は和文の投稿規定に準じる。英文規定は事務局で作成してほしいとの要望があった。

・次年度総会にて報告し、学会ホームページに掲示する。

・WEBジャーナル編集委員は準備委員会メンバーにお願いする。編集委員長は石村理事とし、編集幹事を夏目賢一会員にお願いしたい。

役員選挙とくに理事選出について、意見交換

堀尾理事から、現状の選挙区別会員数と理事定数について説明があった。説明の概要を以下に示す。第2行からそれぞれ選挙区別会員数(3月20日現在)、現行定数の合計16を各選挙区会員数に比例配分した値、それに基づく定数を示す。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 北海道 | 東北 | 関東 | 中部 | 近畿 | 中四国 | 九州 | 海外 | 計 |
| 会員数(A) | 3 | 4 | 51 | 16 | 40 | 5 | 13 | 3 | 135 |
| 16x(A/135) | 0.36 | 0.47 | 6.04 | 1.90 | 4.74 | 0.59 | 1.54 | 0.34 |  |
| 四捨五入 | 0 | 0 | 6 | 2 | 5 | 1 | 2 | 0 | 14 |
| 単純切上 | 1 | 1 | 6 | 2 | 5 | 1 | 2 | 1 | 19 |
| 現行定数 | 1 | 1 | 5 | 2 | 5 | 1 | 1 | 0 | 16 |

　当学会の現状を反映した定数及びその配分となっているか、また選挙区制が妥当か等、まずは意見交換から始め、必要とされれば改定し、第18期役員選挙に適用したいとの提起があった。

以下の意見が出された。

・会員数が減少しているので、理事定員を削減し、かつ選挙区制を廃止するか、もしくは選挙区を合区してはどうか（たとえば北海道と東北、近畿と中国・四国）。

・地区ごとの活動が活発であれば選挙区制に意義があるが、もはや意味をなしていない。

・選挙区制を廃止する場合、会長指名枠を設けて、若手や地方に目配りしてはどうか。

・会長指名そのものはこれまでにもあった立候補の要請と同じである。

本事案は、そもそも会員数の減少またアクティビティに起因する議論であるとして、以下のような意見があった。本事案そのものではないが、参考まで以下に記す。

・若い理事を増やして、会員数の拡大につなげたい。

・若い人から見て魅力のない学会が増えているが、本会では若い人の入会も続いている。

・アクティブな中堅層は増えている。

・九州産業技術史学会が定期的に開催されており活動は活発であるが、会員拡大には直接結びついていない。

理事会そのものについて、下記の意見があった。

・関東地区の理事の欠席が多く、責任を果たしていることになるのか。

・東京での理事会開催を検討する必要がある。